

2006 年度 小委員会活動成果報告

(2007 年 2 月 20 日作成)

小委員会名	西洋建築史小委員会		主 査 名：西田雅嗣 就任年月：2005 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築歴史・意匠委員会		委員長名：吉田鋼市 主 査 名：
設 置 期 間	2005 年 4 月 ~ 2009 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若手研究者の育成・強化策について議論、検討 ・ 新しい研究活動、研究領域の拡大、隣接研究分野との学際協力の可能性、および日本における西洋建築史研究のありかたについて議論、研究 ・ 学術的国際交流促進の方法について議論・検討 ・ 『西洋建築史図集』のメンテナンスの一環として、「デジタルアーカイブ」と「西洋建築史用語集」の作成の必要性と可能性について議論・検討 		
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無 西田雅嗣(京都工芸繊維大学)、伊藤大介(北海道東海大学)、中島智章(工学院大学)、伊藤重剛(熊本大学)、横手義洋(東京大学)、海老澤 模奈人(東京工芸大学)、大橋竜太(東京家政学院大学)、加嶋章博(聖母女学院短大)、堀 賀貴(九州大学)、稲川直樹(中部大学)、星 和彦(前橋工科大学)、太記祐一(福岡大学)		
設置 WG (WG 名：目的)	無		
2006 年度予算	200,000 円	ホームページ公開の有無： 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	無
講習会	無
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	無
大会研究集会	無
対外的意見表明・パブリックコメント等	無
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1．設置目的すべてについて小委員会を開催し打ち合わせ・検討を行った。 2．若手研究者の育成・強化策の具体策として研究発表会を企画したが、事情により実現できなかった。『図集』については、新たな構成の「新訂版」として議論を継続することとなり、関係する種々の問題点の検討も開始した。 3．具体的な成果に向けての準備としての議論・検討を主とする本年度の計画としては、その目標は概ね達成できたと考える。
委員会活動の問題点・課題	1．予算の関係で、小委員会が通信会議を主とせざるを得なく、実際に顔を合わせた会議が困難であり、活動の継続性の確保が難しい。 2．シンポジウム、セミナー、研究発表会等を企画する場合、かなり早からの計画・承認が必要であり、予算の関係で他の催し物等で来日した機を捉えて海外の研究者に講演等お願いしようとしても、委員会主催や後援とするにはスケジュールが合わないことが多い。また東京在住の委員の負担が大きくなりがちである。

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。